

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス カラーズFC古野町		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備【Q1】 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。に対して回答者全員(4名)「はい」と回答頂いています。スペースの広さや、部屋のすみ分けができています。	状況に応じたスペースの使い方 例えば、雨天時で外活動(サッカー活動)ができない場合は、2階フロアにて活動をする事が可能。	状況に応じて対応すると同時に児童や保護者様への案内も入れる事でより取り組み内容(活動内容)の周知が活かされてくる。
2	適切な支援の提供【Q11】 活動プログラムの立案をチームで行っているか。に対して回答者全員(4名)「はい」と回答頂いています。チームとしての動き・考えが一致しており、まとまりのあるチームで動いていると考えられます。	常に対話する事を意識的に行っております。 細かいことでも連絡・相談をし合う意識ができております。報告・連絡・相談を日々意識した取り組みを2026年4月から行っていきます。	対話の内容や質等回数を適宜増やすことによって、チームワークの充実を図ることができます。
3	関係機関や保護者との連携【Q28】 日頃から子供の状況を保護者と伝えあい、子供の発達状況や課題について共通理解を持っているか。に対して回答者全員(4名)「はい」と回答頂いています。 帰りの送迎時に申し送りをする時や、今何に対して困っているのか、保護者様との対話を通じてスタッフも児童の事を思い、	連絡や相談のツールを電話やLINE・HUGのシステム等様々なツールで保護者様に合った連絡手段で対応している。	保護者様が使いやすい連絡手段をアンケート等でヒアリングする。また連絡する際に、つながりやすい時間帯のヒアリングも同時に行う事によってニーズに合わせた連絡や支援をお伝えする事ができる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への説明責任等【Q32】 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。「はい」がひとつもありませんでした。 保護者会自体が関所して間もない事からスタッフから「はい」の回答がなかったと推測します。	保護者会開催又は交流会をする事の意義や目的をスタッフにもきちんと伝える事が必要。 なぜこの保護者会をするかが明確になれば課題も解決できると考えております。	スタッフへの周知と同時に保護者様へ参加の促しを行う。
2	保護者への説明責任等【Q25】 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。の問いにはいい・いいえ1人づつ、どちらでもない2人の回答。 事業所内での研修は実施しているが、公的機関の研修への参加は出来てない状況。専門性を高める為の研修の案内(お知らせ)	知識を高める事への関心や意識が低いように感じます。 自ら学ぶ事を日々の業務や対話する時間の中で行動できるような伝え方を行っていく事が必要。	学ぶ意識を作れる環境、事業所内で自己研鑽をしている行動を見せる。
3	非常時等の対応【Q39】 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行っているか。の問いに「どちらでもないが」2人回答。 事業所が関所して間もない事もあり避難訓練等が実施できてない状況です。今後(2026年度)は、計画を立てて実施できる仕組みを作っていきます。	避難訓練に対する認知はされているが、実行できてない。 事業所内で実施していくように、スタッフへの共有や計画の提案が必要。	非常時に必要な備品をチェックして意識を高める事が必要。 例えば、担当をつけるまたは、購入が必要な物があった場合は随時購入に行くスタッフを決めなくて誰でも行くスタンスを取る。